

聖霊降臨節第 15 主日礼拝説教要旨(8 月 30 日)

『十字架の愛』清瀬證子教師

ヨハネによる福音書 3：1-15

今日の聖書の箇所は、イエス様とニコデモと言う人の対話から始まります。彼はサンヒドリンの会員で名声がありました。その様な人が夜、主イエスを訪問しました。ニコデモは主の行う奇蹟について言及しています。主は「はっきり言うておく。人は新たに生まれなければ、神の国を見る事は出来ない」と言われました。

この時イエス様は奇蹟について答えておられない。

主の奇蹟は、神の国の到来のしるしです。

福音書が伝えている事は全世界の人々を救う為になされる神の救いの御業です。

イエス様は人間に一番必要なことは新しく生まれる事であり霊の変革だとおっしゃいました。

そして主は言われました。「はっきり言うておく。誰でも、水と霊によって生まれなければ神の国に入ることは出来ない」。ニコデモは「年を取った者がどうして生まれる事ができましようか」と主に問います。ここでイエス様は民数記の出来事を示します。

モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければならない。

それは「人の子を信じる者が永遠の命を得るためである」と言われました。

主は民数記の出来事を語りつつ御自身の十字架の死を語られます。

イエス・キリストは、私達人間の罪の代価として神様の前に十字架にかけられ死んでくださった。その時こそ、神の子と罪深い人間との聖なる交換が行われた時であります。

福音書はそこに[イエス・キリストの十字架の愛]が示されたと伝えています。

教会はこのよきおとずれを多くの人々に宣べ伝えていきたいものです。